

Ⅳ－22 観光地来訪者の意見特性からみたこれからの観光地のあり方に関する研究

～徳島県鳴門市鳴門公園・ドイツ館をケーススタディとして～

	ウインズ		殿川孝昭
	前田道路		中川知弘
阿南高専	建設システム工学科	○正会員	加藤研二
阿南高専	建設システム工学科		遠野竜翁

1.はじめに

約5年前まで、日本の観光には「リゾート」という言葉が必ずと言ってよい程ついていた。この言葉を利用しようとし、日本の各観光施設は試行錯誤を繰り返しながら観光客を集めることに必死になっていた。しかしながら、今日の時代背景よりこのような言葉は日本の観光から消えるとともに、観光客を集めるため各観光施設は新たな計画を考えなければならなくなり、このような状況は四国の観光施設も例外ではない。また、平成10年4月に東洋一の吊り橋明石海峡大橋が開通し、神戸・鳴門ルートが全線開通され、四国と京阪神圏が陸路で結ばれるとともに、四国横断・縦貫両自動車道などの広域高速交通体系が進むなど、四国を取り巻く観光の環境は大きく変化しつつある。

このような背景より、本研究においては豊かな自然環境と歴史的文化遺産に恵まれている徳島県鳴門市の観光施設（鳴門公園・ドイツ館）を対象とし、観光施設に訪れる来訪者にヒアリング調査を行い来訪者の意見特性を把握するとともに、政府が提案した今後の観光に対する対策と照らし合わせながら、今後の観光施設の課題及び新たな観光施設の姿を検討する事を目的とする。

2.ヒアリング調査概要

ヒアリング調査は平成10年7月20日（月）（海の日）の祝日に対象とした観光施設（鳴門公園・ドイツ館）に来訪された人々に対し、以下のような項目について調査を行った。

○時間帯 ○住んでいる場所 ○来訪回数 ○グループについて ○来訪の際に参考としたもの等
また、調査方法としては来訪された人々に、各項目（記述式、選択式）に対し解答用紙に回答を直接書いてもらうようにした。

3.来訪者の意見特性

ヒアリング調査の結果から来訪者の意見特性をみていくこととする。

本研究で行った調査の有効回答数は鳴門公園が165、ドイツ館が68であった。

鳴門公園・ドイツ館とも10時頃から15時頃までに訪れる人が全体を通して約70％と多いことより、両施設が来訪者にとっては主たる来訪地目地であると思われる。

また、鳴門公園では8時台及び9時台の来訪者全体の約20％と比較的多くみられる。これは、朝に出発した来訪者が大鳴門橋を渡り、一番近い観光施設である鳴門公園に立ち寄ったものと考えられる。

また、両施設への来訪回数の結果から初めて訪れた来訪者の割合は鳴門公園で70％、ドイツ館で90％、県外から来訪している割合が鳴門公園で97％（うち関西圏から63％）、ドイツ館で82％（うち関西圏から65％）と高い値を示しており、そのうち明石海峡大橋を利用した人の割合が全体を通して約70％の方が利用しているという結果がでた。このことより明石海峡大橋の開通による影響より関西圏の人々が多数訪れているといえる。

また、年代別に何を参考にして来訪したかを調査した結果を数量化Ⅲ類を用いて解析した。年代別をカテ

ゴリー、何を参考にしたかをサンプルとし、各項目のうち、25 %以上の回答があったものを 1、25 未満のものを 0 として表現すると表-1 のようになる。

数量化Ⅲ類を行った結果を表 1-2 に示す。この結果をみると固有値は第 1 軸から 0.5199、0.3333、0.0356 という値が得られており、第 3 軸の固有値は小さいのでここでは無視をして、2 次元の数量を与えることにし、第 1 軸と第 2 軸のカテゴリ数量及びサンプルスコアを 2 次元平面上に図示すると図-1、図-2 のようになる。

表-1 年代別参考物パターン

参考物	年 齢 別 カ テ ゴ リ ー					合計
	10代	20代	30代	40代	50代以上	
家族・知人・の話	0	0	0	0	1	1
近くを通ったから	1	1	0	0	1	3
旅行専門雑誌	0	1	1	1	0	3
週刊誌・月刊誌	0	0	0	0	0	0
観光案内・情報センター	0	0	0	0	0	0
テレビ・ラジオ	0	0	0	0	0	0
新聞広告・チラシ	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	1	1	3
合計	1	2	2	2	3	10

表-2 数量化Ⅲ類解析結果

	固有値	寄与率	累積寄与率	相関係数
第1軸	0.5199	58.49%	58.49%	0.7211
第2軸	0.3333	37.50%	95.99%	0.5774
第3軸	0.0356	4.01%	100.00%	0.1887
カテゴリ数量				
カテゴリ	第1軸	第2軸	第3軸	
10代	1.7696	-1.2910	2.0498	
20代	0.2405	-1.2910	-1.5085	
30代	-1.1252	0.0000	0.4835	
40代	-1.1252	0.0000	0.4835	
50代以上	0.7502	1.2910	-0.3223	
サンプルスコア				
サンプルNo.	第1軸	第2軸	第3軸	
1	1.0404	2.2361	-1.7081	
2	1.2760	-0.7454	0.3869	
3	-0.9292	-0.7453	-0.9562	
8	-0.6936	0.7453	1.1388	

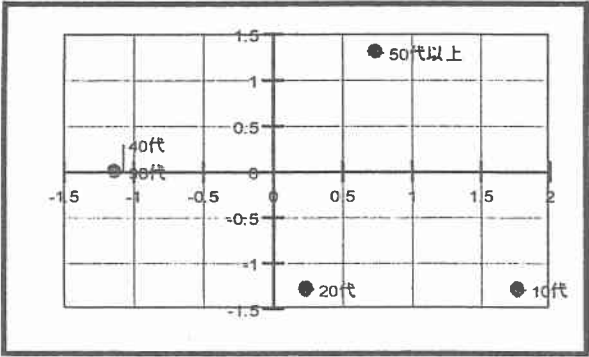


図-1 カテゴリの数量化散布図

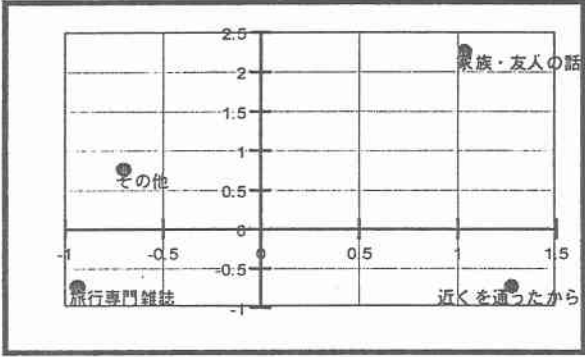


図-2 サンプルスコアによる散布図

この結果をみると、若い年齢層の人ほど自分の意志で目的地を決定する傾向が強く、年齢が高くなるにつれ、観光専門誌、他人の意見を採り入れながら目的地を決定する傾向がみられる。

4.政府が講じた施策

平成 9 年より政府は、公的レクリエーション施設等の整備、観光資源の保全・保護、地方公共団体における観光の取り組みといった施策を講じている。これらをみると、開発を行うのではなくできるだけ現状の施設及び環境を有効に利用し、観光を発展させていこうという考えがあるように思われる。

5.おわりに

明石海峡大橋が開通したことにより、四国の観光も大きく変化しつつあることが分かった。今後は現状維持もしくはそれ以上の来訪者に来ていただくためには、観光施設のみならず公共団体の協力、努力が不可欠であると思われる。

参考文献

○総理府 平成 9 年度版 観光白書